

赤澤宏樹
主任研究員

ひとはく 研究員 だより

「美しい景観」「○○らしい景観」とよく言われますが、美しさにも○○らしさにも個人の好みが多く含まれています。みんなで町



その土地らしい景観と古写真

並みや景観を考える時、意見の幅がとても広く、主義主張がぶつかることもある

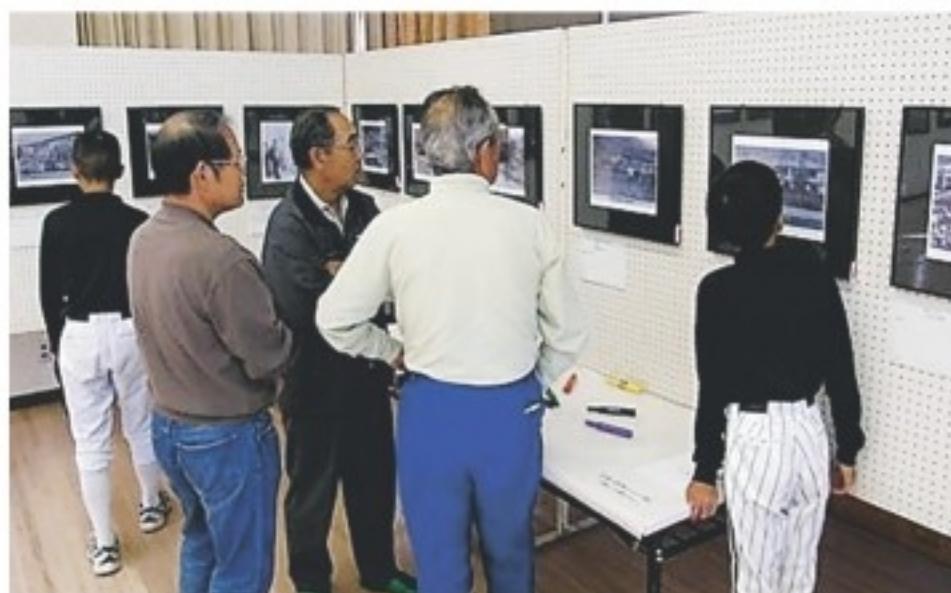
地の歴史や風土、暮らしをふまえて、多くの人が「い

いな」と共感できる景観を知るには、どうしたらよいでしょうか。

今では気軽に写真が撮れます、デジカメが普及する前は「よし！撮るぞ！」



堀を越えて育つ桜
の景観(1888年)



佐用町三河地域での古写真展の様子

と考えて撮った写真が多いように思います。昭和中期以前に撮影された古写真に「美しい景観」「○○らしい景観」が映されています。人と自然の博物館に収蔵されている日本最古級の写真集『Views and Costumes of Japan』(1888年)には、江戸末期から明治期にかけての貴重な景観が映されています。

上の写真は、まだ街路樹の概念がなかった130年前に、個人宅のサクラが堀を越えて大きく育ち、まちを彩っているものです。ここには、美しいサクラの姿だけでなく、自分の責任でサクラを大切に育て、まちも美しくする人々の「美しい心」も映っています。

読者の皆さんとのタنسに眠る古写真にも、実家の周りの自然や、まだ庭木が小さい買つたばかりのマイホーム、笑顔で遊ぶ子ども達など、いろんなものが写っているはずです。今はなくなつてしまつたものも増えて、見ていると何が大切か

わかります。

古代ローマ人の考え方には「背中から未来に進む」というものがあるそうです。前(未来)だけ見て将来を考えても、誰にも未来のことはわかりませんし、不安です。しっかりと後ろ(過去)を振り返り、自分たちの価値を共有しながら、背中から未来に進むという方法もあるのです。このようない考え方をする時、見ただけで理解し共感できる古写真是、とても貴重で有益な資料となります。

皆さんの中でも、古写真を集めてみて、みんなで話してみてはいかがでしょうか。